

ふれ愛にのうち



第7号

太田西ノ内病院広報誌・第7号

発行/財太田総合病院附属太田西ノ内病院

編集/太田西ノ内病院広報委員会

発行日/平成14年1月20日

住所/郡山市西ノ内2丁目5番20号 TEL (024)925-1188

ホームページ: <http://www.ohita-hp.or.jp/>



フィロソフィーのある医療を

財団法人太田総合病院 理事長
附属太田西ノ内病院 病院長

太田 保世

謹んで新春の祝詞を申し上げます。
期待に満ちて迎えた21世紀も、テクノロジー・戦争・経済不況など、暗い幕開けになりました。私は、アン・ドレ・マルローの「21世紀は宗教的(精神的)になるか、さもなければ、なくなるだろう」という言葉を思い出しています。これは、梅原猛氏をはじめ

め、世界の多くの有識者が警告を発してきたように、技術のみを偏重し、精神的な部分、哲学的部分を忘れ去った近代文明に原因があると思っています。医学・医療も例外ではありません。むしろ医学は、最も誤った方向に進んでいる存在かもしれません。

義の呪縛から解放されなければなりません。その代わり、職員の皆様には、質の向上のための、あらゆる努力をお願いしなければなりません。それが、小泉首相のいう改革の痛みでしょうし、本年の太田西ノ内病院は、特にそれを必要とする難局を迎えようとしています。

以前、太田西ノ内病院は、コミュニティ型の病院をめざすと書きました。地域社会に根ざし、地域の方々に満足され、必要とされる病院ですが、同時に、働く職員も自らの仕事に満足できる病院でなければなりません。そして、地域社会は、あらゆる人々と手を携えて、より善いものを創造していく社会です。新しいかたちを創らなければなりません。

昨年の、不幸な国際的な出来事、国内外の厳しい経済環境等を考えれば、太田西ノ内病院は、環境・あらゆる生命体・あらゆる人間との「共存の医学」をテーマに掲げて、フィロソフィー(元々は、愛・想と知識・智慧という言葉から成り立つ)をもった医療の提供に努めたいと考えています。職員各位および関係各位の充分なご理解とご協力を願ってやみません。

が竣工の予定で、救急医療その他の部門が一層充実します。それに伴った跡地の整備でも、これまで多くの職員に耐え忍ぶことを求めてきた点の解消に努めることになっていきます。前号で、佐々木相談役が「スモール・イズ・ビューティフル」と書いておられましたが、内容の乏しい、あるいは内容の質に介入できない拡大主義は、ここで一区切りにし、規模こそ力の象徴とする拡張主



診療科紹介

糖尿病科

糖尿病は近年増加の一途をたどっています。現在、日本で糖尿病患者が病院や診療所で治療を受けている患者数は約200万人です。しかし、糖尿病と推定される患者数は690万人で、約30%の患者さんしか通院していません。さらに、糖尿病の可能性が否定できない人は680万人いると推定されています。糖尿病の症状としては、血糖値が300mg/dlを越えまると、口が渇く、頻回に尿がでる、疲れ易い、体重が減っていくなどの症状がでてきます。正常な血糖値は食事前が70-100mg/dl以下です。

糖尿病患者さんの中で、毎年4000人の患者さんが失明し、8000人が下肢を切断して、透析を開始する方が11000人います。この数字は、糖尿病治療の難しさを物語っています。

何故、糖尿病治療が難しいのかは、糖尿病で少々血糖値が高くとも症状がないことが上げられます。もうひとつの理由は、糖尿病の治療は個々人の生活そのものに密着した、言葉を変えれば日々の生活そのものが糖尿病治療となるからです。自覚症状のない病気を患者さんに治療してもらえないようにするには、糖尿病は治療しなければならない病気であること

を患者さんに認識してもらわなければなりません。このため糖尿病教室という形式で、患者さんに糖尿病を理解してもらい、治療しようという意欲を持ってもらうことが大切となります。糖尿病の患者教育は、糖尿病の治療そのもののなのです。

糖尿病の治療法には、大きく分けて3つあります。食事療法、運動療法、薬物療法の3つです。食事療法は、栄養士が集団教育や個別教育をとうして、運動療法は運動トレーナーが個人の体力測定をしながら個人の運動指導をしています。また薬物療法は、医師の処方により開始

となるわけですが、特にインスリン治療に関しては薬剤師によるインスリン自己注射指導が欠かせません。さらにインスリン治療者のほとんどは、血糖自己測定を行うようにしてもらいますが、臨床検査技師がこの血糖自己測定を指導しています。糖尿病に関する知識の習得確認や日常生活の指導は看護婦が個別指導の形式で行っています。また、医師とコメディカルの導線として、看護婦は重要な役割を担っています。さらに、糖尿病患者で心理的な問題をかかえる患者さんに臨床心理士が対応しています。このように、糖尿病治療にはチーム医療が欠かせ

ません。逆に言えば、どの職種1つ欠けても糖尿病治療は成り立たなくなってしまうのです。毎週1回（金曜日）の総回診には、医師と看護婦、薬剤師、栄養士、臨床心理士などのコメディカルに行っておりま。また、眼科医、循環器医、形成外科医、神経内科医の先生方との連携を大切にしています。

糖尿病センターには、糖尿病指導医、糖尿病専門医の他、コメディカルで糖尿病療養指導士の資格をとったスタッフが13人おります。現在、1月の外来患者さんの数は3500人であり、入院患者さんも約70人前後です。外来では、患者さんの待ち時間が長くなってしまう時もあり、外来の構造改革の必要性も痛感しております。糖尿病が心配とか、糖尿病の方が親族にいらっしやる方はぜひ外来を受診していただければと思います。



糖尿病スタッフ



西ノ内見聞録

ここでは、西ノ内病院の各病棟・外来・その他さまざまな部署に潜入し、その全容にせまってみたいと思います。

14病棟

活気に満ちた病棟



14病棟スタッフ

14病棟は、外科と形成外科、歯科口腔外科の3つの混合外科病棟です。手術を目的とした患者さんがほとんどで、小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者さんが入院しています。毎日、入院してくる人、手術をする人、退院する人がいて、笑い声あり、泣き声ありの活気に満ちた病棟です。その活気に満ちた病棟を支えているのが、看護婦、医師を含む、多くのコメディカルスタッフです。コメディカルスタッフとは、患者さんが、安心して快適な入院生活が送れるように、それぞれの専門分野で働く人たちです。それらのコメディカルスタッフたちが、力を



ナースステーションの様子

合わせ専門性を最大限に生かし、患者さんが、より快適な入院生活が送れるように、調整をしているのが14病棟のスタッフです。一口に調整といっても、コメディカルの人たちの特性を知り、何がこの患者さんにとって必要なかを見極める必要があります。それらを見極める能力を養うように私たち14病棟のスタッフは、日夜努力しています。

患者さんに入院して頂いたときから、何か困っていることがないかを、第一に考え、解決できる良い方法は何かを見極めより快適な入院生活が送れるように、スタッフ一丸となって関わっています。

(熊田市子)

耳鼻咽喉科外来

目配り、気配り、心配り元気に明るく



耳鼻科外来スタッフ

耳鼻咽喉科外来は、耳、鼻、喉に関する疾患を診察しております。

患者さんは幼児から成人まで、一日約七〇名から百二〇名来院しております。中耳炎は、小児に多くみられ、痛みや熱を伴います。鼻、喉、耳の聴こえに関しては、成人の方が多く、季節によっては、花粉症などのアレルギーでお悩みの患者さんも多く通院されております。耳の聴こえに對しての悩みをお持ちの方は、水曜日の午前に、福島医大の医師の診察があります。補聴器を希望される方は、月に2回水曜日の午後に補聴器外来を行っています。完全予約で実施しています。まず、午前中の外来を受診していただき

ます。そして、必要な検査をすませ、予約をとっていただくようになります。患者さんの聴力に適した補聴器を相談の上、調整しおためしいただくようになります。

声がでないなど喉の症状で、お悩みをお持ちの方は、金曜日の午前、独協大学の医師の診察があります。

診療時間は、午前十一時まで受付をすませていただきます。患者さんの診察が終了するまで行います。診療終了が、午後二時から三時になることもあります。午後には手術等の予定があるため受付を行っておりません。

医師・スタッフともに、地域に密着した医療を目指しています。毎日、患者さんに、暖かく親切な対応を心がけています。日々の診療場面に目配り、気配り、心配りをし、元気に明るく患者さんに満足していただけるように努力しています。

(矢吹キク)



最新機器による診察

くすりの広場⑦

～製剤室紹介～



当院製剤室は、本館地下業務用エレベーターの隣に入口があります。スタッフは、薬剤師2名、薬剤助手1名の3名です。市販されていない薬品を、医師からの要望により必要な薬を作っている所といえます。少し詳しく紹介していきたいと思っています。

製剤室の中は更に、乾性製剤室（主に粉薬等を作るところ）、湿性製剤室（消毒剤など水剤を作るところ）、滅菌室、無菌室・IVH室と大きく四つの部屋があります。

まず乾性製剤室では病院独自の散薬を主に作っています。この部屋には大量の散薬を作る混合機から、非常に少ない量まで測れる計りまであり、色々なニーズに答える事ができます。

湿性製剤室では、滅菌室と連動して大量の蒸留水を作り、これを使って大量のうがい薬から消毒剤・吸入薬等様々な水剤を作っています。文字通り湿ったものを作っている部屋といえます。又、特に消毒剤に関しては、適正な濃度で使用目的別にきちんと使い分けなければ本来の効果どころか副作用もでてしまう

ので、調整の他に関連部署への指導も行っています。更に特殊な軟膏を少量から大量まで、坐薬等もここで作っています。

滅菌室では、蒸留水を作る機械と薬液を滅菌する装置があり、ここで滅菌が必要な薬液（消毒剤等）を滅菌しています。当院では、記念病院・熱海病院の分まで一括して滅菌を行っているので、本数は週に約300本ぐらいいなっています。

IVH室では写真の様に通常薬剤師2名で作業を行っています。特殊な注射剤の調整や、食事を摂れない人のための輸液（高カロリー輸液・IVHといいます）、点滴剤の調整がこの部屋で行う主な内容です。現在一日30～40名分を調整しています。が、この中には生まれたばかりの赤ちゃんから、高齢者まで様々な人のIVHの調整をしています。この部屋に入るには、専用の予防衣をつけ、エアシャワーでほこり等を取り除いて入室します。午後はほとんどこのIVH業務を通じて患者様の為に頑張っています。

製剤室での業務は他にも色々ありますが、今回はどういふものを作っている所なのか、また普段患者様と顔を会わせる事がない部署なので、病院の薬剤部にはこういう所もあるんだと、少しでもご理解頂ければ幸いです。これから

も皆様の要望に出来るだけ応え、患者様が必要とされる薬を提供できるようにスタッフ一同頑張っていきたいと思っています。

（岩田教一）



検査あらがると

そろそろインフルエンザの季節になりましたね。

従来、インフルエンザの確定診断法には二つあり、どちらも時間がかかりました。ウィルスを直接分離する検査法は特殊性と煩雑さがあり、一方の血液による検査法は、初回採血と3週間後の採血により抗体価の上昇を比較しなければなりませんでした。

しかし、迅速診断キットができてからはインフルエンザの診断と治療における環境は大きく変化しました。現在のインフルエンザウィルスの検査は、モノクローナル抗体（ここではインフルエンザウィルスを認識する抗体）を検査試薬に使用することにより、わずか20分程で確定診断ができるようになった。



この検査材料の採取法には3種類あります。

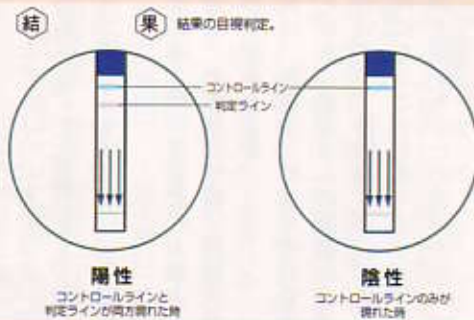
- (1) 生理食塩水を鼻の中に入れ洗浄する方法（鼻腔洗浄液）
- (2) 鼻の中に綿棒を入れ鼻腔壁拭い取る方法（鼻腔拭い液）
- (3) 喉の中に綿棒をいれ咽頭粘液を拭い取る方法（咽頭粘液）

どの方法も少しつらい思いをするかもしれませんが、正しい検査結果を得るためには、少々我慢してください。

インフルエンザは、A型またはB型イ

トピックス

インフルエンザウィルスの感染による流行性の急性呼吸器感染症であり、毎年流行を繰り返しています。現在の迅速診断キットは、A型、B型のいずれかに罹患しているかどうかを判定します。



さて、インフルエンザワクチンはA香港型、Aソ連型、B型の3種類が混ざっているのですが、どの型にも効果があることになっています。しかし、ウィルスは毎年変異しているため、その年にあったワクチンに少しづつ変えてあります。ワクチンの効果は年齢によって違い、また基礎疾患をもっている方の接種については、先生に相談されることをお勧めいたします。

インフルエンザは、くしゃみなどでウィルスが直接肺や気管支に入り感染するため、外から帰ったら、うがい、手洗いを励行して今季を乗り切ってください。

（前田順子）

「ご意見箱」を ご存じですか？

当院の各所には、「ご意見箱」が設置されています。

当院にご来院された方々が「気がついたこと」「わからないこと」「困ったこと」等々・・・何でもお気軽に投書していただくものです。「ご意見箱」に寄せられた投書は、担当部署にそれぞれ回付され、最終的には当院のサービス委員会にて検討し、施設設備の見直しや事務改善の参考とさせて頂いております。また記名されている投書については直接ご本人様にご返答させて頂いております。



院内各所に10個設置しています

ここで平成13年11月に寄せられた投書の件数についてご紹介いたします。

◆診療について	12件
◆接遇について	5件
◆待ち時間について	2件
◆食事について	1件
◆施設設備について	1件
◆その他	7件



本館待合いのホールの「ご意見箱」

当院についてお気づきの点がございましたら、気軽に「ご意見箱」をご利用ください。
なお、不明な点は庶務課までお問い合わせください。
(庶務課)

彩食健美

鰯とチーズの ロールキャベツ



【材料】(2人分)

鰯(たら)	2切(各60g)
ベーコン	20枚(20g)
スライスチーズ	2枚
白ワイン	大さじ2
コンソメスープ	150cc
バター	小さじ1(4g)
ゆで野菜(ブロッコリー・人参・小玉葱)	
塩・胡椒	
1人分 エネルギー	186kcal
塩分	1.3g

「鰯」は字のごとく冬が旬の魚で、鍋料理には欠かすことができない代表的な白身魚です。脂肪が少なく、筋組織も軟らかいので胃腸の弱っている時やお年寄りには最適です。淡泊な味なので、どんな味付けにも合います。

一方、キャベツはアクが少なく、生で食べるのも美味しいですが、熱を加えることによりさらに甘みが増します。キャベツにはビタミンCが多く、風の予防や疲労回復に効果的です。ビタミンU・別名キャベジンと呼ばれるビタミンは同じ名前の胃腸薬があるように胃もたれを緩和してくれる作用もあります。

今回は、電子レンジを使った簡単に短時間に出る料理をご紹介します。高温・短時間加熱が、ビタミンなどの栄養の損失を少なくしているのも、電子レンジ料理のポイントです。「鰯とチーズのロールキャベツ」ぜひ、お試しください。

【作り方】

- ① 鰯の切り身に塩・胡椒をして、白ワイン(分量外)を振りかけます。
- ② 鰯をベーコン・スライスチーズで巻き、下ゆでしたキャベツの葉でしっかりと包み込みます。(キャベツはゆでて芯の部分を削いでおくことと包みやすくなります。)
- ③ 耐熱皿にバターを塗り、白ワイン・コンソメスープ・キャベツで包んだ鰯をのせ、ラップをして電子レンジ約10分間加熱します。(電子レンジが無い場合には、蒸し器で約15分蒸してください。)
- ④ 付け合わせの温野菜を適当な大きさに切り、塩ゆでしておきます。
- ⑤ ③を斜めに二つに切り、皿に盛り付けます。
- ⑥ 耐熱皿に残ったスープで④の温野菜を軽く炒め、塩・胡椒で味を整えて⑤に添えます。



胃腸科・循環器科鈴木医院



高橋内科



今村ホームクリニック



オープンシステム 情報ネットワーク

太田西ノ内病院では、患者さんに質の高い医療を受けていただくために、開業医の先生方と連携をむすんでいます。ここでは、太田西ノ内病院オープンシステムの登録医療機関、登録医師をご紹介します。

高橋内科医院

所在地/〒963-8861

郡山市鶴見坦1-9-13

電話/024-923-0161

FAX/024-923-0174

診療科/内科一般

休診日/日曜・祝日

診療時間/月～金 9:00～18:30

土 9:00～17:00

病床数/14床

往診・訪問診療：可

(時間はといてませんが、午後であれば好都合)



昭和42年

昭和31年
昭和32年

副院長

高橋 サチ

福島県立医科大学医学部卒業
山形市済生館病院イン턴終了
県立医科大学附属病院第三内科入局
高橋内科医院開業



昭和42年

昭和31年
昭和32年

院長

高橋 一彦

福島県立医科大学医学部卒業
竹田総合病院イン턴終了
県立医科大学附属病院第三内科入局
高橋内科医院開業



一彦先生(前列中央左)、サチ先生(右)とスタッフのみなさん

これからは、高額医療機器による精検・急性疾患への対応・手術等太田西ノ内病院を基幹として、益々お世話になるかと思っております。で、これからもよろしくご協力申し上げます。

郡山市の開業内科医で、入院を置いている所は、二院になってしまいました。厚生省の急激な医療制度改革の推進に開業医ではついてゆけず、且つ、医療スタッフ確保の困難さもあり、当院も近々入院をやめようと思っております。

二人とも70才を過ぎ、体力・気力共に劣って来ましたが、これからは「ロマンのあるかかりつけ医」として精進しようと思っております。幸いに三人の子供等全て医者になってくれましたので、後を継ぐ事を心から願って毎日の診療にいそしんでおります。

この間、無我夢中で突っ走ってまいりましたが、振り返ってみますと35年間はあつと言う間の出来事でした。

開業は昭和42年でしたから、はや35年間もたつてしまいました。当時は、現在の内環状線のど真ん中に木造建ての開業でしたが、約100坪市に買い上げられ、現在の土地のない、庭のない、コンクリートの囲いの中の生活になってしまいました。

登録医から

胃腸科循環器科鈴木医院



院長 鈴木 良一

昭和26年 東北大学医学部卒業・昭和27年 東北大学医学部第一外科入局・国立仙台病院外科勤務・昭和33年 日東病院外科部長・昭和39年 現在地に開業・平成10年 医療法人胃腸科循環器科鈴木医院院長・主な学会認定医 日本消化器病学会、消化器内視鏡学会 消化器内視鏡検診 日本内科学会



鈴木先生(前列右から2人目)、山口先生(左)とスタッフのみなさん

太田西ノ内病院には大野昭一先生、三浦則正先生の頃から言葉には言い得ない程大変お世話になっております。当院では行い得ない精密な検査や入院加療を必要とする患者さんが発生した場合等には何時も素早くご懇切且つ適切に診療して頂き、治療結果についても詳細な御報告を頂戴し感謝しております。地域医療連携室の皆様には何時も無理をお願いを快く聞いてくださる厚い心より有り難いと思っております。太田西ノ内病院が今後地域医療のセンターとして益々御活躍されます事を切にお祈り申し上げます。

昭和39年夏、東京オリンピックの年に鈴木外科胃腸科医院として当地に開業しました。今年で38年目になります。平成10年名称を医療法人胃腸科循環器科鈴木医院として変更し甥の山口望医師と共に診療に当たっております。

所在地/〒963-8023

郡山市緑町1-6

電話/024-922-3648

FAX/024-924-5025

診療科/胃腸科・循環器科・内科・外科

休診日/水・土曜日午後・祝日・日曜日

診療時間/月・火・木・金

8:30~12:00

14:00~18:00

水・土曜日

8:30~12:00

病床数/なし

往診・訪問診療:あり

登録医から

今村ホームクリニック



院長 今村 仁治

平成13年3月 順天堂大学医学部卒業・臨床研修終了後、東京女子医大・日本心臓血管研究所・循環器内科教室入局。その後、都立府中病院(循環器科)、仙台循環器病センターに勤務。平成10年 東京女子医大 心臓血管研究所 有給助手。同年 不整脈・心不全・心臓移植病棟指導医。平成12年12月今村ホームクリニック勤務。



理事長 今村 雅幸

昭和34年 東邦大学医学部卒業・インターン終了後、東邦大学産婦人科教室入局。在籍中に大宮日赤病院、関東中央病院等の産婦人科へ出張勤務。昭和41年学位取得。同年7月より現在地に今村産婦人科小児科医院を開業。現在に至る。



今村孝子先生(前列右から1人目)、今村雅幸先生(右から2人目)
今村仁治先生(右から3人目)、今村夏雄先生(右から4人目)とスタッフのみなさん

当クリニックは、幸いにも太田西ノ内病院と近距離にあり、クリニックでは出来ない検査や治療、入院など、非常にスムーズな連携が得られ、患者様にも大変好評をいただいております。これからも、地域の基幹病院である太田西ノ内病院と緊密に連携し、ホームクリニックという名称に恥じないよう、皆様方の家庭医として良心的な医療を実践していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

昭和41年7月、現在地にて「今村産婦人科小児科医院」を開業し、地域の皆様方には大変お世話になり36年が経過しました。平成12年12月、息子夫婦の帰郷を機に新しく診療所を建築し、名称を「今村ホームクリニック」と改めました。医療の世界も、他分野と歩調を合わせて日進月歩の発展を遂げつつあり、開業当初と比べ正に様変わりしております。私もこの点を十分配慮し、ハードの面にも、またソフトの面においても現今の医療に十分対応できるよう、日々研鑽に努めてまいります。

所在地/〒963-8023

郡山市緑町4-12

電話/024-922-8999

FAX/024-925-5678

診療科/内科・循環器科・神経内科・産婦人科・小児科・皮膚科・リハビリテーション科

休診日/日曜、祝祭日

診療時間/平日 9:00~12:30

14:00~17:30

(内科は19:00まで)

土曜日 9:00~12:30

病床数/なし

往診・訪問診療:あり

登録医から

★21世紀の申し子たち★

太田西ノ内病院で生まれた赤ちゃんを毎回紹介していきます。

質問

- ①生まれた時の感想
- ②名付けの理由
- ③子どもに願うこと
- ④ご両親の決意を一言

データ

え くち う きょう
江口 右京 くん

- 13年12月17日
5時27分生まれ
- 体重2630g
- 父：江口一明さん
- 母：江口陽子さん



右京君とお母さん

- ①パパそっくり！
- ②レーザー片山右京のように強く優しい人に育ってほしい。
- ③強く優しく元気な子に育てたいです。
- ④いつも笑顔の絶えない家庭にしていきたい。

データ

さ とう かつ なり
佐藤 克成 くん

- 13年12月15日
13時20分生まれ
- 体重3280g
- 父：佐藤 隆さん
- 母：佐藤淳子さん



克成君とお母さん

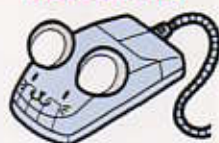
- ①夫：ムラサキ色でビックリした。
私：元気に生まれてきてくれてありがと！
- ②己の欲望にうち勝ち何事にもまけずに成し遂げる人になってほしい。
- ③わんぱくで外交的な子。
- ④会話やコミュニケーションを大切に楽しい和のある家庭。



**第4回
オープンシステム
(開放型病院)勉強会**

平成13年11月15日(木) 郡山ビューホテル・アネックスにて、太田西ノ内病院の医師、登録医の先生方による勉強会が行われ、一般の方も多数参加されました。

編集後記



平成13年は12月に愛子さまが誕生され、やっと明るい話題で年を越せてよかったと思います。今年は新しい病棟が生まれ、さらに医療の面でのサービスの

向上がなされていることと思われまふ。新棟の工事中、ある時には音がすごかったり、ある時には埃が舞い、ある時には突き上げるような振動があり、ある時には普段嗅いだことのないにおいが漂い、工事に携わっている人はほんとうに大変だと思ふ。事故もなく1日も早く無事工事が終了して、新しい病棟が稼働し、晴れ晴れとした気持ちで働けるように自分自身を鍛えていかなければならないと思っています。

話は変わりますが、暮れ正月は昔ほどの感激はなく、店は1月1日から営業をはじめているところも多く、正月用品の買出しも必要でない感じがします。最近自分としては普段カロリーの多い食事(けっして高価な食事ではないが)になっていることから、せめて正月だけでも粗食にし、仙人のような生活もよいかと思っています。(須田秀一)

太田西ノ内病院広報委員会

委員長 佐久間秀夫
副委員長 須田 秀一
委員 吉成 妙子・遠藤めぐみ
朝倉 俊成・後藤 桂子
松田美津子・荒川 幸徳
木原 均・久下 薫
佐藤 浩徳(幹事)